

わくわく中国文化



—中国の世界遺産⑫—

Illustration by KOH_HSL(instagram)

中国の世界遺産⑫

江蘇省は中国沿海地区の中部に位置し、省都は南京市です。土地面積は10.72万km²で、常住人口は8526万人です。呉、東晋、南北朝時代の宋、齊、梁、陳は前後して南京に都を定めました。江蘇省には世界遺産が4か所あります。

蘇州古典園林

蘇州の古典園林は「蘇州園林」とも呼ばれ、江蘇省蘇州市に点在する中国古典園林の総称です。蘇州園林は春秋時代の呉が姑蘇（現蘇州市）に都を定めた時に始まります。呉の国王の宮殿の多くは太湖の山と水の上に建てられ、蘇州古典園林の発端です。五代十国時代に形成され、宋の時代に成熟し、明清時代に全盛期を迎えました。清の末期には、城内外に園林が170か所余りありましたが、現在は50か所ほど残っています。蘇州古典園林の歴史は2000年間続いて、世界造園の歴史で独特な歴史地位や価値を占め、山水を「写意（微細な描写をせず、情趣の表現に重きを置くこと）」という優れた芸術技法を通して、オリエンタルな造園芸術の手本が展示されました。「拙政園」と「留園」を代表とした蘇州古典園林は「咫尺の内に乾坤を再創造する（狭い空間に壮大な世界を築くということです）」と褒めたたえられており、中国の庭園文化の傑作と誇りです。

1997年に蘇州の「拙政園」・「環秀山荘」・「留園」・「網師園」は蘇州園林の代表作として世界遺産に登録されました。また、2000年11月に「滄浪亭」・「獅子林」・「芸圃」・「耦園」・「退思園」も拡張プロジェクトとして世界遺産に登録されました。



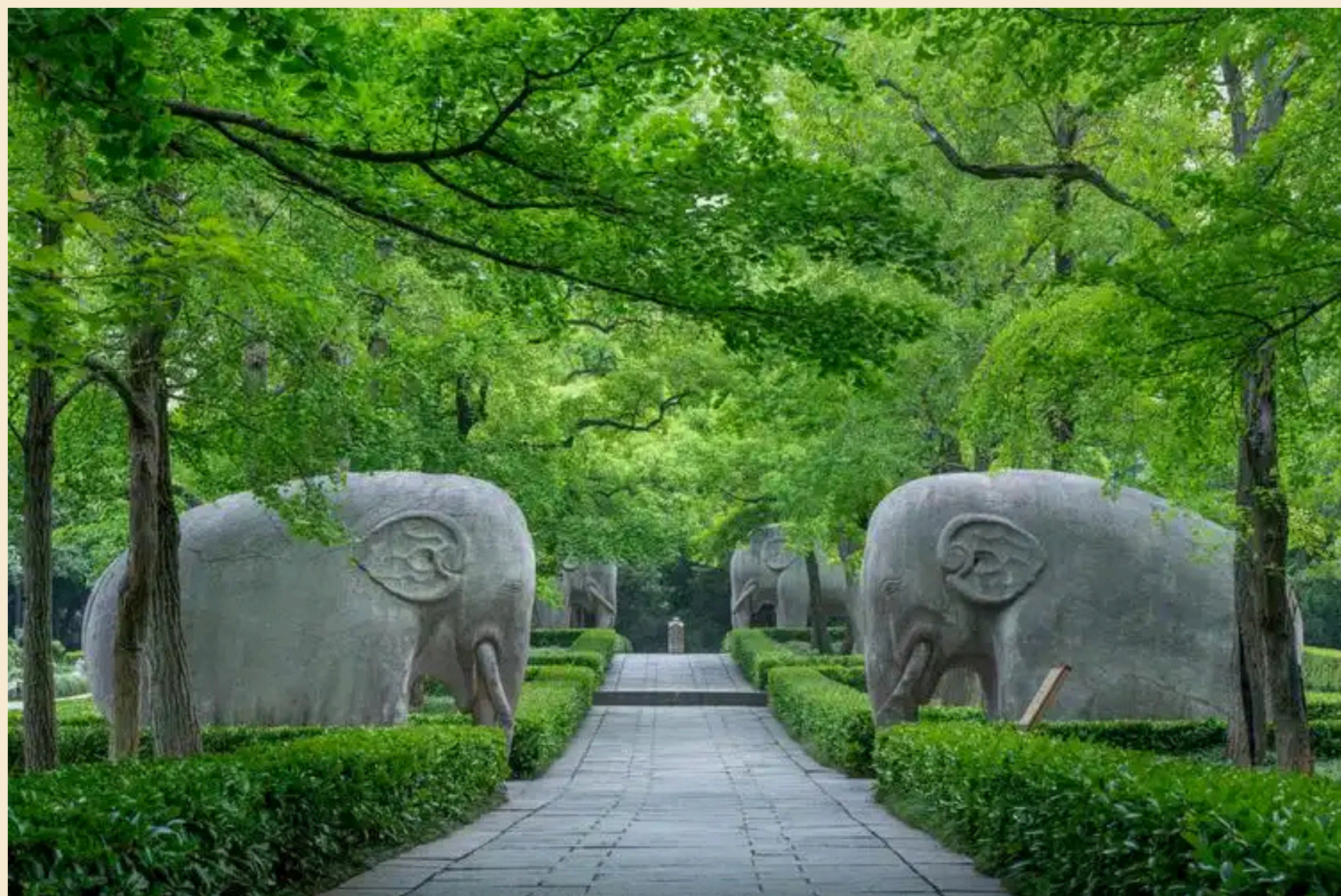
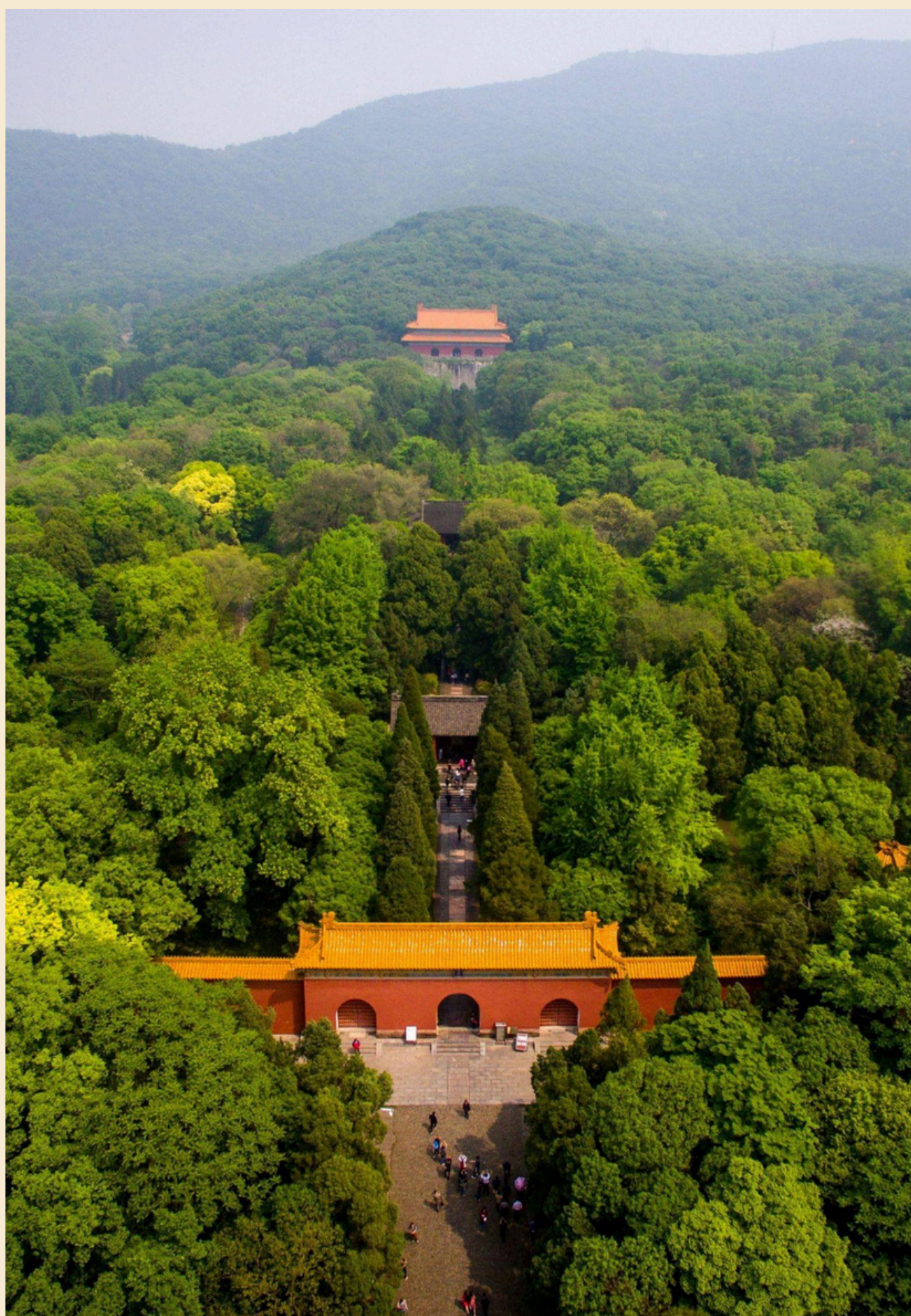
江蘇 J I A N G S U

中国の世界遺産⑫

明孝陵

明孝陵は南京市の鍾山の南側の麓に位置し、明王朝を建国した洪武帝・朱元璋と皇后馬氏との陵墓です。1381年に建造し始めました。2000年近くの帝王陵墓の発展の長い年月に、南京明孝陵は重要な転換点といえます。洪武帝・朱元璋は方楼・明楼・亨殿・長方形の陵墓宮殿の制度を新しく設けました。四角形の墳丘を圓丘に変え、独特なスタイルになりました。このスタイルは明・清両王朝の500年余りにわたって20以上の帝王陵墓の構造と様式に影響を及ぼしました。それゆえ、「明清帝王陵墓第一陵」と称されています。

2003年7月3日に、明孝陵は明・清両王朝の皇帝陵墓の建築群の拡張プロジェクトとして世界遺産リストに登録されました。



江蘇

J I A N G S U

中国の世界遺産⑫

大運河

大運河は古代中国の労働者の知恵の結晶でもあり、世界で最長・最早且つ規模が最大の運河でもあります。全長2700kmで、紀元前486年から建造し、隋唐大運河、京杭大運河、浙東運河という3つのパートとなっており、10本の河道からなっており、8つの省市と27の都市を流れています。

江蘇省内で、千年も流れた大運河は徐州市、宿遷市、淮安市、揚州市、鎮江市、常州市、無錫市、蘇州市など8つの都市を通して、数えきれない歴史遺跡が残され、各都市の文化交流にも繋がりました。

中国大運河は2014年6月に世界文化遺産に登録されました。



塩城黄海渡り鳥生息地

塩城には美しい海岸線があり、2000年前から城を囲む所は塩がたくさんあることから、「塩城」と名付けられました。中国黄海渡り鳥生息地（第1期）は総面積が1864km²で、680種類を超える脊椎動物がいます。こちらには世界で最大規模の潮間帯（潮の干満により露出と水没を繰り返す干潟や浅瀬）を持っており、全世界百万羽以上の渡り鳥の休む場所・羽毛が生え変わる場所・冬越しの場所でもあります。

2019年7月5日に、塩城黄海渡り鳥生息地は世界遺産リストに登録されました。江蘇省で唯一の世界自然遺産でもあり、中国国内で初めての沿岸湿地タイプの自然遺産でもあります。



江蘇 J I A N G S U